

# 委託事業実施内容報告書

## 平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名 国際基督教大学

#### 1 事業の趣旨・目的

外国人児童生徒の日本語学習支援にたずさわる指導者に対し、日本語会話力テスト(OBC: Oral Proficiency Assessment for Bilingual Children)の技能を修得してもらうために、基礎理論から実践技術までの研修を行う。

#### 2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月20日 13:30～ 16:00	三鷹ネットワーク 大学 〔三鷹市〕	石井恵理子 宮田知佳 櫻井千穂 鈴木庸子	公開講座募集の方法について	募集要項の原案を作成。公開講座の名称、定員と募集方法を決定。
8月2日 15:00～ 16:00	国際基督教大学 〔三鷹市〕	宮田知佳 鈴木庸子	応募者の確認	応募者の応募動機を確認。
8月17日 13:30～ 17:30	さぬき倶楽部 〔港区〕	石井恵理子 櫻井千穂 鈴木庸子 中島和子	OBC 実践ワークショップについて(1)	OBC ワークショップの内容とスケジュールを確認。OBC 実演のための子どもの募集、ツールおよびマニュアルの手配について討議。
9月12日 13:00～ 16:15	三鷹ネットワーク 大学 〔三鷹市〕	石井恵理子 藤田ラウンド 幸世 櫻井千穂 宮田知佳 鈴木庸子	OBC実践ワークショップについて(2)	教室を見学し、機材の確認、OBC 実演の際の教室レイアウトを討議。OBC ツールの準備方法を再度確認。

11月17日 17:30～ 20:00	さぬき倶 楽部 〔港区〕	石井恵理子 櫻井千穂 鈴木庸子 中島和子	OBC 実践ワークショップに ついて(3)	ワークショップの具体的 スケジュール、OBC 実 演の手順、承諾書等 について討議。
11月29日 17:00～ 18:30	喫茶店 〔三鷹市〕	石井恵理子 藤田ラウト 幸世 櫻井千穂 宮田知佳 鈴木庸子 中島和子	OBC 実践ワークショップに ついて(4)	ワークショップのスケジ ュール、ツールについて 課題を検討し、3月のス プリングセッションに向 けて、改善点を討議。

【写真】(なし)

### 3 養成講座の内容について

(1) 養成講座名 「外国人児童生徒の日本語力・母語力の育成:基礎講座とOBC実践ワークショップ」

(2) 養成講座の目標

基礎講座:外国人の子どもに対する日本語教育、会話力測定の基礎として、第二言語習得、子どもの心とことばの発達、識字問題、バイリンガル教育に関わる重要な概念を理解する。

OBC 実践ワークショップ:子どもの会話力を測る方法の一つである OBC (Oral proficiency assessment for Bilingual Children)の理論的背景を理解し、実践技術を身につける。指導の必要性和指導方法を判断する力を養う。

(3) 受講者の総数 66 人

(4) 開催時間数(回数) 36 時間 ( 10 回)

(5) 参加対象者の要件

外国人児童生徒の日本語学習支援に関わっている、または関わろうとしている一般成人、学生。

(6) 受講者の募集方法

- 1) 三鷹市教育委員会に知らせを出す。
- 2) 三鷹市教育委員会を通じて三鷹市校長会にて配布し周知を依頼。
- 3) NPO 三鷹ネットワーク大学推進機構(三鷹市生涯学習支援の団体、本企画の会場)、財団法人三鷹国際交流協会(三鷹市の国際交流推進を目的とする団体、外国人児童生徒の日本語教室を開催)にチラシを置かせてもらう。
- 4) NGO ピナツボ復興むさしのネット(ピナット)(事務局三鷹市野崎、外国人児童生徒の日本語学習支援を実施)のメーリングリスト

5) 母語継承語バイリンガル教育研究会(事務局桜美林大学、会長中島和子)のメンバーリングリスト

6) 鈴木庸子(運営委員代表)のホームページに掲載  
(募集のチラシ2種を添付)

(7) 研修会場

9月26日～11月29日【全6回】・・・NPO三鷹ネットワーク大学推進機構(三鷹市)

3月24日、25日【全2回】・・・東京女子大学(杉並区)

(8) 使用した教材・リソース

1. 各講師が作成したハンドアウト、パワーポイントのスライド
2. ワークショップ用に作成したOBC資料集(冊子)、語彙カード、タスクカード  
(リソース、教材の一部をホームページに掲載した)

## (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月26日 13:00～ 16:30	言語習得理論（日本語の第二言語習得）	国際基督教大学教授 佐藤 豊	21名
10月10日 13:00～ 16:30	子どもの心の発達と学習	国際基督教大学教授 栗山 容子	21人
10月24日 13:00～ 16:30	世界の識字問題	国際基督教大学教育研究所顧問 千葉 果弘	20人
10月31日 13:00～ 16:30	日本における多言語性とバイリンガル教育	国際基督教大学教授 ジョン・C・マーハ	21人
11月21日 13:00～ 14:30	OBCワークショップ(1) [OBC 概要]	トロント大学名誉教授 中島 和子	22人
11月21日 15:00～ 16:30	OBCワークショップ(1) [地域の子どもたち]	ピナツボ復興むさしのネット(ピナツト) 出口 雅子	22人
11月22日 13:00～ 16:30	OBCワークショップ(2) [OBC の方法、研究・実践例]	トロント大学名誉教授 中島 和子	19人
11月28日 13:00～ 16:30	OBCワークショップ(3) [OBC の実践と評価法]	トロント大学名誉教授 中島 和子	20人
11月29日 13:00～ 16:30	OBCワークショップ(4) [OBC の評価・採点法、研究実践例]	トロント大学名誉教授 中島 和子	19人
3月24日 10:00～ 17:00	OBCワークショップ(5) [概要、方法、実践例①]	トロント大学名誉教授 中島 和子	40人
3月25日 10:00～ 17:00	OBCワークショップ(6) [実演、評価、実践例②]	トロント大学名誉教授 中島 和子	40人

## (10) 講座の評価

### ① 受講生に対するアンケート

基礎講座に関しては、触れることの少ない内容で刺激があり視野を広げられたという意見と、専門性が高すぎた或いはすでに習ったことがあるという意見に反応が分かれた。OBC 実践ワークショップに関しては、有意義であった、講義がわかりやすかった、実践や実演の観察を通して OBC の方法をしっかり学ぶことが出来たなどの意見が寄せられた。総合的に同じ分野で子どもに関わっている者同士の情報交換、ネットワークができた、Website の利用は便利だったという評価を得た。

### ② 実施主体からの研修内容結果評価

地域で日本語指導にあたっているボランティア指導員の指導力向上に貢献できたばかりでなく、海外からも多くの参加者を得て継承語としての日本語教育従事者のニーズに答えることができた。特に OBC (Oral Proficiency Assessment for Bilingual Children) による会話能力の測定に関して多くの人にその必要性と技能を学んでもらうことができた。

### ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

これまでどおり、三鷹市内の外国人支援にかかわる諸団体に対して教員による講義・講演を行う、ボランティア学生の紹介を行うなど直接協力することで、外国人児童生徒の日本語力養成にかかわる知見を地域に広め、支援の充実に貢献する。

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

三鷹国際交流協会ほか市内で開始した日本語教室のボランティア(日本語指導者)の本講座への参加(7名)。母語継承語バイリンガル教育研究会開催の研究会開催に合わせて、OBC 実践ワークショップスプリングセッションを行い、海外を含め近隣以外の地域の日本語指導者にも OBC ワークショップ参加機会を提供し、学びの機会を広げた。

### ② 研修後の人材活用

研修修了者は、それぞれの現場に、基礎講座およびワークショップの成果を持ち帰り、現場の教育に生かしている。また大学院生は研究にワークショップの成果を生かし、将来的に、この分野の教育の充実に貢献することができる。

## (12) 今後の課題

平成 21 年度に行った基礎講座は、カリキュラムとして成果を収めることができた。し

かし一般成人対象の講座であるため、講座内容の専門性を定めにくい点で、問題が残った。現場で教育にあたっている受講者と、異なる分野から最近日本語ボランティアを始めた受講者で、背景知識に開きがあり、その調整が難しい。前もって軽い事前学習をうながすなどの工夫が必要である。

OBC ワークショップは、子どもの会話力を知る技術の習得を目指すもので、参加者の満足度は非常に高かった。OBC が有効であろうことが予測できるが、今後、このワークショップをだれがどのように開催していくか、ツールであるタスクカードなどをどう供給すべきかが課題である。

以上